



# ふれあい スポーツ

発行  
滋賀県障害者スポーツ協会  
〒520-0037 大津市御陵町4-1  
滋賀県立スポーツ会館内  
☎ 077-522-6000  
FAX077-521-8118

## 滋賀県障害者スポーツ協会設立20周年記念

# 障害者スポーツフェスティバル in 滋賀



記念式典で「協会20周年のあゆみ」を報告する八田副会長（左座席は稲葉会長）

11月22日・23日 於県立長浜ドーム

11月22日(土)・23日(祝)、県立長浜ドームにおいて、協会設立20周年記念事業「障害者スポーツフェスティバル in 滋賀」が開催されました。

した。

この行事は「障害者スポーツメモリアルイベント」と「全国障害者グラウンド・ゴルフびわこ大会」の2つの行事から構成され、22日のメモリアルイベントについては更に3部構成となっており、第一部「滋賀県障害者スポーツ協会設立20周年記念セレモニー」では、最初記念式典が行なわれ、普段とは異なる荘重な雰囲気の中、協会会長・稲葉稔滋賀県知事の挨拶の後、会員代表から協会へのメッセージ、来賓挨拶、協会20年の歩みの報告、表彰等と続き、最後は式典全体を素晴らしい演奏で盛り上げて下さった甲西高校吹奏楽部による「マーチングショウ」で締めくくられました。続いて特別記念イベントとして、アトラクタパラリンピック金メダリスト成田真由美さんの講演、奈佐誠司とソウルスタッフの皆さんによる車イスダンスが行なわれ、出演者と来場者が一緒になり感動を分かち合う事ができました。

第二部「協賛・障害者スポーツイベント」では、知的障害者のサッカー大会としては初の交流大会となるCMHサッカー競技びわこ大会が開催され、滋賀県チームを含む、5府県6チームの参加があり、予選会場となった屋外会場では雨天の中、選手たちは熱心にボールを追い掛けていました。また、予選と決勝の間には、Jリーグ京都パープルサンガ普及部による「ふれあいサッカースクール」があり、大会参加者に地元のサッカー少年達も加わり、教室は大いに盛り上がりました。

そして、第三部では「全国障害者グラウンド・ゴルフびわこ大会」の開会式と参加者の代表者会議が行なわれ、アリーナに整列した全国からの参加者は、翌日の競技を前に、やや緊張した面持ながら、闘志を新たにされていたようです。

翌23日は全国障害者グラウンド・ゴルフびわこ大会の競技大会および閉会式がとりおこなわれ、屋外においては時折小雨も混じり、気温も上がらないという生憎の天候にもかかわらず、

# フェスティバルin滋賀

# 感動を新たに

## 障害者スポーツメモリアルイベント



初の全国大会にふさわしい素晴らしい素晴らしいプレーが繰り広げられました。

さらに、両日にわたり交流プラザとして地元長浜市の多くの福祉関係団体や県下の共同作業所等の協力のもとに「にぎわい広場・テント村」が開催され、またニュースポーツである「ピームライフル」「フライングディスク」の体験コーナー、また、県健保連による「健康くらぶコーナー」もあり、それぞれがイベント全体を盛り上げて下さいました。

こうして、記念すべき当協会の20周年事業は多くの人々のご協力により、感動のうちに幕を降ろす事が出来ました。

なお、この行事の運営に関わって下さった全ての関係者、協力者のみなさんに深く感謝の意を表したいと思います。

▼雨の中、ゴール前の攻防 (C・M・Hサッカー競技大会)



▲パラリンピック金メダリスト成田真由美さんのトーク



▼車イスダンスショーの一コマ



▲テント村の賑い

# 協会設立20周年記念

# 障害者スポーツ

## 全国障害者グランド・ゴルフびわこ大会

障害者のみを対象にしたグランド・ゴルフ大会としては初の全国大会の試みであり、また、全国規模の競技団体もなく、他府県の障害者クラブ・ゴルフ人口や取り組み状況等が全く解らない中で、全国から参加者をどれぐらい集められるか非常に不安でしたが、北海道から九州までの広範な地域から多くの参加者を集める事が出来、県大会で選抜された県内の参加者となり、三〇一名の規模の大会となりました。大会当日は時折



寒風の中、ポストぎわで接戦を繰り広げるプレイヤーたち

雨が振る生憎のコンディションで、風も強く気温も低かった為、屋外のコースではスコアを崩す選手が多く、スコアの差が付きにくい屋内の人工芝のコースに対して明暗をはっきり分ける結果となりました。結果、団体競技の部においては県大会等で長浜ドームのコースの経験がある事が有利に働いたためか、滋賀県内のチームが1位から3位までを占める結果となりましたが、一般の全国大会への豊富な出場経験を持つ大阪車椅子G同好

会も4位・5位に入り、抜群のスコアで個人競技の部の優勝を果たした西村文邦選手を抱える和歌山SGC(1)チームが6位に入るなど、県外選手の活躍も目立ちました。

一方個人競技の部においては前述の西村選手がホールインワンを3回も出すという競技内容で、33打のすばらしいスコアを叩き出し優勝を飾ったほか、11位までは30打台というハイレベルな戦いとなり、全国大会にふさわしい熱戦が繰り広げられました。また、「上位争いにはとても…」という参加チーム・個人についても、大会を大いに楽しみ、沢山の思い出を持ち帰って頂きました。

こうして、記念すべき「全国障害者グランド・ゴルフびわこ大会」は、初の全国大会に際し成績処理に電算機を導入したため、記録処理に手間取り閉会式が遅れる等のハプニングもありましたが、盛會裡に幕を降ろす事が出来ました。

なお、来年度以降の全国障害者グランド・ゴルフ大会の日程は残念ながら決まっておられません。しかしながら、今回灯された全国大会の火がこのまま消えてしまう事は、障害者スポーツにとつて大変残念なことだと思われまふ。

当協会としても開催ノウハウ等について出来るだけの支援を行ないたいと考えておりますので、是非、他府県からも開催の名乗りを上げて頂き、全国大会

として継続開催される事を希望しております。ご関心のある向きは当協会までご連絡下さい。

なお、大会の主な成績は次の通りです。

★団体競技

優勝 湖北町A  
(滋賀県) 一二七打

準優勝 大津市1  
(滋賀県) 一二九打

3位 甲南町身障更生会A  
(滋賀県) 一二九打

4位 大阪車椅子GG同好会  
2(大阪府) 一三〇打

5位 大阪車椅子GG同好会  
1(大阪府) 一三〇打

6位 和歌山SGC1  
(和歌山県) 一三一打

★個人競技

優勝 西村 文邦 三三打  
(和歌山SGC1)

準優勝 生田俊治郎 三四打  
(秦荘町)

3位 土田賢二郎 三五打  
(甲南町身障更生会B)

4位 中田 実 三六打  
(湖北町A)

5位 三田村たみ 三六打  
(今津町C)

6位 横井 安雄 三八打  
(月曜クラブ/東京都)

★ホールインワン賞

○三田村たみ(今津町C)

○辰野八重子(多賀)

○久保田勘藏(愛東町A)

○西村 文邦(和歌山SGC1)

### 屋内グラウンドの競技のスコア



6位 和歌山SGC1 (和歌山県) 一三一打

6位 横井 安雄 三八打 (月曜クラブ/東京都)

★ホールインワン賞

○三田村たみ(今津町C)

○辰野八重子(多賀)

○久保田勘藏(愛東町A)

○西村 文邦(和歌山SGC1)

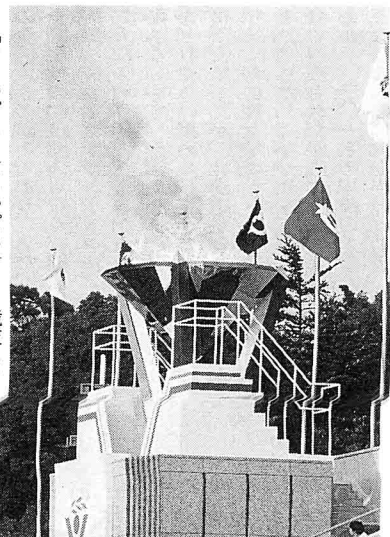


# カいっばい、愛いっばい ゆうあいピック愛知・名古屋大会

10月18・19日 名古屋市瑞穂公園陸上競技場 他

「力いっばい、愛いっばい」のスローガンのもと、ゆうあいピック愛知・名古屋大会が10月18・19日、名古屋市瑞穂公園陸上競技場を中心に開催された。今大会には全国47都道府県・12政令指定都市から過去最多の四九二五人の参加選手があり澄み渡る秋空の下、選手たちの熱戦が繰り広げられました。大会ごとに競技レベルが上がっていると言われるゆうあいピック大会ですが、とりわけ今大会ではそうした印象が強く、参加人数が過去最大となったのみならず、競技の内容も過去最高と言えるレベルの高い大会となりました。

なかでも、滋賀県選手の活躍は素晴らしく、大会新記録には手が届かなかったものの、自己新記録が13も出るなど日頃の練習の成果が実り、個人競技出場選手の大多数がメダルを獲得する事が出来ました。しかし、前回の北海道大会では初出場ながら見事に3位入賞を果たした団体競技のサッカー競技については、初戦で次回のゆうあいピック開催地である茨城県チームに延長PK戦にて1対2で惜しくも破れ涙を飲みました。



燃え上がる「ゆうあいの火」後ろには滋賀県旗が！

このように、全種目に渡り練習の成果を遺憾なく発揮した滋賀県選手団でしたが、メダル総数においては北海道大会の30個に対して20個と大きく減少し、これまでの大会に較べメダル獲得の難しさを実感する大会ともなりました。

一方、競技以外の部分では、大会を通して選手同志の親睦が深まり、競技終了後、対戦相手と記念写真を撮り合う等の光景がそこかしこで見られました。そして、競技終了後の後夜祭では、全国から集まった選手たちの交歓は更に深まり、来年の再会を誓う姿も見られました。

なお、今回「ゆうあいピック茨城大会」は「いい友、いい愛、いい心」をスローガンに、10月17・18日、茨城県笠松運動公園陸上競技場を中心に開催される予定です。

「選手の個性を生かす事」  
個人競技監督 堤 正義

私は、この大会で個人選手の監督という役目を与えられる事になりましたが、6月の最初の強化練習会から大会まで約4ヵ月間は大変苦勞致しました。

なぜならば、私自身監督という立場は初めてであり、皆様に相談し、指導を乞いながら自分なりに強化練習会等の指導を行いました。なかなか上手く行かず、コーチや役員の方々へ感謝することもありました。

そして、その中から選手の個性を理解する事を教わり、それを生かす事を強化練習会等に取り入れる事で、選手達とコミュニケーションを取る事も出来、大変嬉しく思いました。

そして、臨んだ愛知・名古屋



地元交流でみかん狩りを楽しむ桐山選手

「チャンスがあればもう一度」  
近江学園 桐山 勉

ぼくは、ゆうあいピック愛知名古屋大会に出場した。それまでに合宿や練習会、それに障害者福祉センターで指導を受けて出場した。

大会会場は大きく、そしてとてもキレイだった。

大会一日目は25メートル自由形に出場した。当日ぼくはかな



選手を送り出しホッと一息。(堤監督)

大会において、各選手は強化練習の時とは違って変わった頑張りをを見せてくれ、殆どの選手が入賞出来、私は自分自身の事のように嬉しく思いました。

それまで経験した大会も素晴らしいものがありました。この大会は私にとってまさに「一生忘れられない」思い出となりました。

この喜びを障害者スポーツ協会

大会二日目は50メートル自由形と百メートルリレーに出場した。二日目は一日目ほど緊張もせず、わりとリラックスして競技にぞめたように思う。50メートル自由形、百メートルリレーとも三位に入り、うれしかったけど、本当は優勝したかった。この大会に参加して、緊張もしたが、楽しく競技することができた。チャンスがあるならばもう一度出てみたい。





池田団長に健闘をたたえたらう寺田選手

「次回ももっともっと……」

守山市 寺田 浩人

僕は、今回初めて全国ゆうあいピック大会に初出場しました。去年の夏、六月から月々一回ずつ、県内の陸上競技場、暑い中、頑張って練習に励んで来ました。最初の選手記録会で、百メートル、五十メートル、走幅跳、走高跳に出ました。その内、走幅跳と走高跳が県代表として選ばれました。

夏の七月末に、彦根陸上競技場で練習し、夜はスポーツ会馆で一泊二日の合宿をして貰いました。

リレーの練習も何回か繰り返してやって来た分、僕は今年ゆうあいピック大会に初出場したわりには、せめて三位迄入りたかったが、ちょっと遅れて六位でした。後、走幅跳が四メートル二七で六位の敢闘賞でしたが、走高跳が一メートル三十で三位になり、銅メダルが貰えて良かったです。

晴天に恵まれ、全国の都道府県の数客の中、病気やけがをせず済みました。次回はもっともっと頑張ります。又、今後共どうか宜しくお願致します。



ダブルピースの勝見選手(中央)

「うれしいばかりで「パイ」

信楽町 勝見 孝次

ほくはスポーツが好きです。今回は名古屋大会にでられることを楽しみにしておりました。滋賀県選手の皆様は日ごろ練習の成果を思う存分発揮し、ほくは練習をばげんできました。ほくがそうぞうをしてたより大へん広いところだ。この場所、ほくは出きるかぎり自分の力、パイだそうと思った。

夜になると皆といろんなおはなしをしたり、あずはがんばろうというってばげまして楽しい夜でした。

十八日は二バンだった。まさかメダルをもらえるとは思いませんでした。その時はなんていってよいかわからないうれしさだった。よかったです。その時の気持ちはずいぶんいいなりました。

十九日もがんばろうと思ったこの日は一バンだった。メダルをもらった。金と銀と二個もらった。その時の気持ちはうれしいうれしいばかりで「パイ」にむねがなりました。

コンパニオンの人からも心からおいわいをしていただきました。大へんうれしかったです。ほくは牛です、よい一年でした。

自分たち個人の手で表現自由に行こうし、多くの人たちから受けとられ一人上にいる。フィルムにきのうまでの思い出があふれていく。

これもお皆さんのおかげでございます。ほんとうにありがとうございます。

「来年こそ 金メダル」

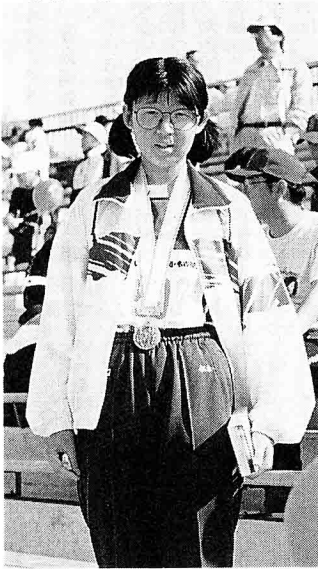
信楽学園 秋永 一久美

私のでた種目は、八〇〇mと走り高とびでした。私は予選にしておてビックリしました。ともうれしかったです。

ゆうあいピック名古屋大会にでるのに、強化練習をしたりしました。私は八〇〇mにでるためにグラウンドをゆっくり走ったり、ももあげの練習もがんばりました。走り高とびもでるの強化練習の時に練習をしました。私は、最初走り高とびをとぶのがこわかったけれども、走り高とびの先生とかいろいろなことを教えてもらって、がんばって走り高とびをしました。そしてゆうあいピックに行くためにも皆で合宿までして、がんばって練習をしてきました。

私は八〇〇mが自信がありました。走り高とびはあまり自信がなかったです。でも強化練習の時、1m10cmとべました。練習はきつくてつらかったけれど、がんばって練習しました。

最後の練習の時、私は「本番になったら走れるのかなあ、とべるのかなあ」と心の中で思っ強化練習をがんばってしました。10月17日は八〇〇mの練習を名古屋でしました。私の出番は19日午前中に八〇〇mと走り高とびでした。私は八〇〇mを走る順番をまわっているとき、ドキキとして足がおもかったです。私の番になってきて、緊張してしまいました。でも、走ってたら緊張かんはなかつたです。八〇〇mは5位でした。八〇〇mがおわってすぐ走り高とびのほうになりました。走り高とびはおくれていて、しばらくまわっていました。



走高跳での銅メダルを胸に(秋永選手)

「メダルの重さ」

栗東町 中井 義則

私は走り高とびは80cmからとびました。私の自己記録は1m10cmでした。緊張していて1m10cmがとべるかと不安だったけれども、1m10cmがクリアできて、次は1m15cmで、私は1m15cmまではとんでなかったのに1m15cmとべて、ともうれしかったです。走り高とびでは3位で銅メダルでした。私が1m15cmとべるとはおもわなかったです。1m15cmとべたときは感動しました。来年こそ絶対に走り高とびで1m20cmをとんで優勝します。名古屋大会にでられて、よい思い出が作れてよかったです。



卓球の塩田コーチと共に(中井選手は左)

去年に栗東なかよし作業所に入所して、はじめてのゆうあいピック愛知・名古屋大会の出場が決定しました。選手選考記録会で、出場が決した後は重圧感を感じる日々が続きました。

彦根での強化練習会の際に足がなれるまでつっぱたりしたが、日ごろ運動をしていたほうがよいということがわかりました。彦根や皇子山の強化練習会の際には、卓球の選手はだれ一人やすむ人がいなかったもので練習の成果がでたのではないかと思っただけです。

自分なりの練習は草津の福祉センターでマシンをつかって友達や兄の子どもたちと練習をしてきました。

ゆうあいピック愛知・名古屋大会の説明会に出向いてからは以前に増して重圧感を感じる日々を送ることになりました。

ゆうあいピック愛知・名古屋大会に行く前の15日の昼からの激励会の際に、一回戦はかつといったので、かててよかったです。

ゆうあいピック愛知・名古屋大会で銅メダルをもらい、思いがけない成績をあげることができたのですが、メダルの重さに人の温かさと人生を感じたゆうあいピック愛知・名古屋大会でした。

来年もゆうあいピック茨城大会にでられるように練習をし、一試合でも多くかてるように練習をしたいと思います。

ゆうあいピック愛知・名古屋大会を通じて、6日間たくさんの友達もでき、多くの人たちにお世話になりました。ほんとうにありがとうございました。

次回は頑張れ/サッカーチームの面々(竹中選手は2列目左端)



「今度こそは……」  
信楽通動寮 竹中 誠

今回のゆうあいピック名古屋大会に、僕はサッカーで出場しました。

大会前に僕は足のけがをしてしまい、あまり練習にもでられなかった。でも、僕の気持ちの中は、優勝することはいっぱいでした。大会数週間前に足が治って、練習にも出られるようになって本当に良かった。

そして名古屋での前日練習では、「今年はず優勝するんだみんなの力を一つにしたら、必ず勝てる。」と自分に言い聞かせて、それを僕は強く信じていました。試合当日、なれていない芝生だったから、少し不安はあったけれど、今までの練習の成果を発揮しようと思いつ合にできました。結果は延長の末にPK戦で二対一で負けてしまい、くやしい思いをしました。

今度こそは優勝をねらっています。今度こそは優勝をねらっています。そのためにたくさんしあいをしていきたいと思っています。

### ゆうあいピック愛知・名古屋大会滋賀県選手成績表

氏名	種目	記録	順位	氏名	種目	記録	順位	
横江拓哉 (少年組)	25m平泳ぎ	27秒73	5	秋永一久美 (少年組)	800m競走	3分29秒31	5	
	50m平泳ぎ	50秒92	6		走高跳	1m15	3	
辻明恵 (少年組)	25m自由形	21秒11	2	黒坂俊夫 (少年組)	走幅跳	5m56	1	
	25m背泳ぎ	28秒67	5		ソフトボール投	73m08	1	
渡辺敦史 (青年組)	25m平泳ぎ	21秒76	1	寺田浩人 (青年組)	走幅跳	4m29	6	
	50m平泳ぎ	53秒00	2		走高跳	1m30	3	
中小路大介 (少年組)	25m自由形	17秒20	3	秋永篤 (少年組)	卓球	1回戦 0-2・・・	-	
	25m背泳ぎ	29秒18	4		卓球	一回戦 2-0・・・ 準決勝 2-0・・・ 決勝 2-0・・・	1	
桐山勉 (少年組)	25m自由形	19秒51	6	淵田彰 (少年組)	卓球	一回戦 2-0・・・ 準決勝 0-2・・・	3	
	50m自由形	42秒59	3	入江衛 (壮年組)	卓球	一回戦 2-0・・・ 準決勝 0-2・・・	3	
藤田由記 (少年組)	走幅跳	2m84	5	中井善則 (壮年組)	卓球	一回戦 2-0・・・ 準決勝 0-2・・・	3	
	50m競走	8秒67	4		山田雄二 (少年組)	フライングディスク アキター ディスク	6枚 31m52	3 5
大石千草 (少年組)	100m競走	17秒29	6		フライングディスク アキター ディスク	1枚 16m74	2 5	
	50m競走	8秒69	5	勝見孝次 (壮年組)	フライングディスク アキター ディスク	4枚 36m12	2 1	
神山茂 (少年組)	50m競走	7秒99	6		水泳100mリレー	1分14秒54	3	
	ソフトボール投	47m36	6					
辻正規 (少年組)	1500m競走	4分33秒97	1					
	800m競走	2分16秒42	1					
山本昇司 (少年組)	400m競走	1分10秒00	4					
	50m競走	7秒34	2					
	男子400mリレー	54秒76	6					

(太字は自己新記録)

団体種目	サッカー	一回戦	滋賀1-1茨城(延長PK滋賀1-2茨城)
------	------	-----	----------------------

「ときめいて今 かがやいて未来」

第33回全国身体障害者スポーツ大会

# ふれ愛びつく大阪

11月2日・3日 大阪市長居陸上競技場 他

11月2日・3日、「ときめいて かがやいて未来」をスローガンに、第33回全国身体障害者スポーツ大会(ふれ愛びつく大阪)が大阪市長居陸上競技場を中心に開催されました。

今大会は全期間に渡り天候に恵まれ、絶好のコンディションの下、全国から集まった選手たちの熱闘が繰り広げられました。今大会からは、これまで用いられてきた競技種目共通の障害区分が全面的に改められ、競技種目別の障害区分に一新されたことに加え、年令区分も設けられ



開会式における滋賀県選手団の入場行進(11月2日)

たことから、この大会での記録が全て新たな大会記録として刻まれることになり、その意味においても記念すべき大会となりました。また、これまで個人選手については、一生に一度しか出場を認めなかったこの大会でしたが、今大会より出場者の一部については二度目の出場者が認められることになり、あらゆる点において新しさを感じさせる大会となりました。

今大会は予想外の冷込みに悩まされた前回の広島大会よりもさらに一週間あまり開催時期が

遅く、11月の開催となったため天候が心配されましたが、大会参加者の熱意が天に届いたのか大会は全期間に渡り天候に恵まれ、関係者を安心させました。

また、京都大会以来9年ぶりに地元近畿地方での開催となったことから、応援に駆け付ける人も多く、滋賀県選手が登場する度にスタンドからは大きな声援が送られていました。

一方、選手達も声援に気迫のこもった競技で応え、参加者と応援者の間の絆を感じさせる大会でもありました。

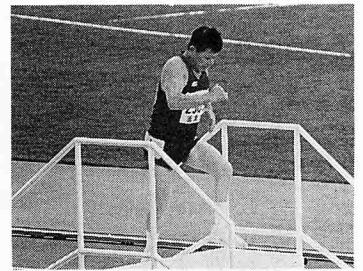
しかしながら、障害区分の変更、年令区分の新設、二度目の出場者の活躍等ハイレベル化していく大会に対し、今一步のところでメダルを逃す事も多く、結果、前回のメダル獲得数24個に対し、金5銀7銅3の計15個にとどまり、メダルの重さを実感する大会となりました。

そして、競技終了後の後夜祭では、全国から集まった選手たちは大会の余韻にひたりながら別れを惜しんでいました。こうして、第33回全国身体障害者スポーツ大会は、参加した全員に深い感動を残し、幕を降ろしました。

なお、次回の第34回全国身体障害者スポーツ大会(かながわゆめ大会)は、「あなたと握手あなたに拍手」をスローガンに平成10年11月7日・8日、神奈川県横浜市、横浜国際総合競技場を中心に開催されます。

「生涯忘れる事が出来ない」  
大津市 松浦 儀明

豊かな自然に包まれた歴史に夢とロマンが繰り広げられた。「ふれ愛びつく大阪」に出場できたことをここに深く感謝申します。



障害急歩競技での松浦選手

「最高の大会」  
米原町 田中 光二

目標としていた卓球での銅メダルが獲れてホッとした気分です。また、ハンドボール投げは自己最高記録を上回る記録で5位となり、あの暑さの中で厳しいコーチに素直に従ってればこんな結果にならなかったのではないかと悔いが残ります。

会場で最初は大広さと観客に圧倒されましたが、旗手は初めてでしたので、良い経験をさせてもらえ、感動しています。

選手達はお互いに励まし合いながら、精神的に助け合い、チームワークの大切さを大会で教えられました。

また、私は職場から休みを頂くことが出来たお蔭で試合に集

上げます。

六月の代表選手選考会で出場権を与えられ、それから約五ヵ月間、強化練習会で日頃の練習の成果を発揮する事が滋賀県の選手だと考えた。

開会式が始まり、参加者から一斉に感激の聲が上がった。私はこの時込み上げてくる喜びと無事終了を祈る気持ちで胸が一杯になった。

本大会は生涯忘れる事が出来ない。競技は精一杯頑張る事が出来た。

最後に団長・監督・コーチの皆様、指導員・協力員の皆様、大変お世話になり本当にありがとうございました。

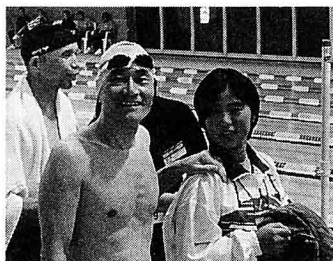
中することが出来ました。

皆と一緒に練習したことで、色々な人との交流が深まり、更に感動を味わう事が出来た事で一生に一度のこの大会を最高のものにしました。全国身スポ大会は勝つ事も大切ですが、お互い不足している部分をカバーしながら歩いて行く事に意義があると私は思います。

選手団の旗手をつとめた田中選手







お世話になった介護人の中林さんと

「感謝の気持ちで一杯」  
大津市 村田俊志朗  
水泳競技の25m自由形及び25m平泳ぎに出場した。  
第1日目の25m自由形は第2位、タイムは18秒85。第2日目は平泳ぎは優勝、タイムは自己ベストの22秒92だった。全日程の間晴天に恵まれ、暑すぎる位だった。

「二生懸命やった。結果に満足」

永源寺町 若林 重市



通天閣での一コマ(若林選手は前列左)

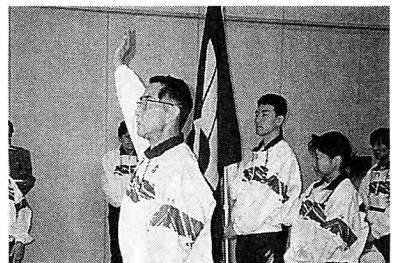
6月の選考会で出場が決定してから約5カ月間、多くのコーチや指導員の方々のお世話になり、強化合宿や練習会が計5回ありました。スタートの仕方、車のこぎ方、またソフトボールの投げ方を手とり足とり教えて頂きました。また、自分でも早朝の車通りの少ない時間に道路で車イスを走らせたり、町民ズラウンドでバックネットに向かつてソフトボール投げの練習を行ったりしました。結果、走っては日を追うごとにタイムが

縮まり、投げては距離も伸びてきて、この調子で本大会に臨むことが出来ればと思っていました。いよいよ出発の10月31日、滋賀県公館で結団・壮行会をして頂き一路大阪へ……新大阪駅では大勢の方の出迎えを受け大変感激しました。そして、開会式では数万人の観客が見守る中の入場行進。グラウンドに整列した時は胸にジーンと来ました。競技は第1日目の一〇〇m競走が2位、2日目のソフトボール投げも同じ広島市の選手に破れて2位となり、ちよつと残念な気もしましたが、自分では一生懸命やった結果なので満足しています。皆が元気で帰ってこられたのも団長をはじめ監督・コーチやサポーターの方々のお蔭と感謝しております。

第1日目は長居陸上競技場の入場行進に参加、大観衆の中の堂々とした行進に感激した。スタンドの上からではなく、競技場の中から観客を見るのは初めての経験だったので、本当に貴重な体験だった。式典の終了後、水泳競技場となる「なみはやドーム」に移動、道路が混んで少し遅刻した。ウォーミングアップの為にプールに入り練習を行なったが、開始式があるため、また急いでユニフォームに着替えた。日差しが強くサウナに入っているようだった。

「生涯忘れられない感動の連続」

八日市市 吉村 宗二



結団式で選手宣誓する吉村選手

第2日目は5時起床、水泳の者だけ早い朝食を摂り、なみはやドームに向かった。2日目は時間の余裕があつて、練習も出来、何かにつけて落着いた行動が出来た。他の選手の競技を見ている時、皇太子様、雅子様がお見えになったが、出番が近づき待機をしていた時にお帰りになり、競技を見て頂けなかったが残念であった。しかし、反面気楽に泳げたため好タイムが出たのかも知れないと思う。全日程晴天に恵まれ、体調も良かったため楽しく過ごせた。多くの人達に助けられ、支えられ、本当に良い思い出が出来て感謝の気持ちで一杯である。

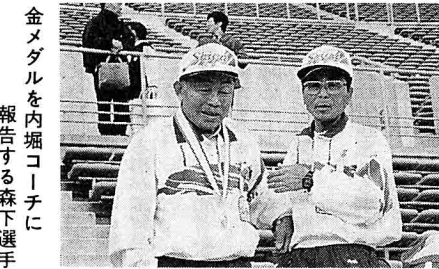
見上げると蓋い被さるような巨大な大阪長居陸上競技場のスタンド、そこに五万余の大観衆の盛大な拍手。五〇〇人の吹奏楽、一〇〇人のファンファーレ六〇〇人の合唱の中、感激と興奮と緊張で思わず身が引き締まられ、熱いものが込み上げて来ました。思い返せば指導員の方に「一度全国大会に出場してみれば」と再々に勧められましたが、何分高齢で下半身の障害です。43才で負傷して以来スポーツなんて私には出来ないと思つて否定していました。そこへ再三のお勧めを受け、文字通り渋々六月の選考記録会に出席し、13人の仲間の中に選ばれました。当初種目は違つても運動会の延長線ぐらいに思つていました。ところが、強化練習会に参加しますと本格的な陸上競技であり、団長・監督・コーチの皆さんの

厳しく熱心な指導に、これは思い違いをしていたと反省し、心を入れ替え練習中は俗世界の事は全て忘れ、青春時代の気持ちに帰れ、10センチいや1センチでも記録を伸ばそうと懸命に努力致しました。家でも体操・筋力トレーニングを行いました。大会では力及ばず入賞出来ませんでした。監督・コーチの指導通り、私としては力一杯競技する事が出来ました。どの選手もそれぞれ違った自分の障害を乗り越え競技に取り組んでいくその姿、その前向の精神力に強く勇気付けられると共に、入賞出来た人には、「良かった、良かった。」と自分の事のように喜び、入賞出来なかった者には互いに励まし合い、「ふれ愛びっく」そのものの大会でした。高齢の私が6月以来5カ月、そして5泊6日の永い行程に落伍せず皆さんと行動を共に出来たのは、偏に団長・監督・コーチそして選手の皆様の温かい励ましのお蔭であり、厚くお礼を申し上げます。

「二生の思い出」

八日市市 森下 祐助

私は今から十一年前軽い脳血管症にかかり不自由な身になり、最近特に目が見えにくくなりました。五月末に弟から障害者スポーツ大会に参加して見ないかと勧められ、6月の記録会に出場し皆さんのお蔭で全国大会に出場させて頂きました。強化練習中は皆さんに迷惑ばかりかけていましたが、大会では思わぬメダルを頂く事が出来ました。また、大会中皆さんと楽しく過ごさせて頂いた事は、私の心の中に一生の思い出として残る事と思います。これからは皆さんの心温かい教えに従つて頑張つていきたいと思ひます。

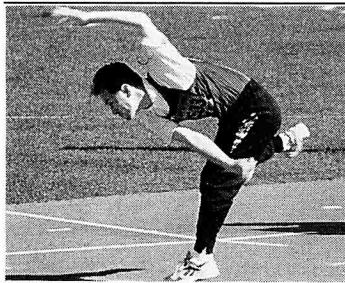


金メダルを内堀コーチに報告する森下選手

「人生に大きなプラス」

彦根市 宇野 繁博

「宇野繁博君、滋賀県。」  
一五〇〇mスタート約1分前のコルが競技場内にアナウンサーされる。選手全員がスタートラインに立ち、スタートを待つ私はこの緊張がとても好きで、さあ頑張るぞという気持ちで一杯になる。



ソフトボール投げでの宇野選手

選手に選ばれてから今日まで毎日の練習は出来なかつたが、出来るかぎり時間を見つけてトレーニングに取り組んできた。持久力だけでなく、スピードも要求されるため、練習会では出来るかぎりインターバルを取り入れて、スピードの練習も行なってきた。結果がどうなるかは走ってみなければ分からないがとにかくベストを尽くすのみである。

練習でいろいろとお世話になった方々の事が頭に浮かんでくる。1日目の最終種目ということもあり、滋賀県選手役員の皆様もテントから競技場に駆け付けて下さり、その声援がとても心強く感じる。それぞれの選手がどれくらい力を持っているのか全く分からないが、スタートは思ったより速く、最初の1周は4分30秒のペースで、私の目標の5分30秒よりも1分も速いハイペースである。オーバペースにならないように少しペースを落とすが、トップとはかなり離れた感じである。しかし、自分のペースを守って、ラスト1周に全力が出るように考えながら走る。そして、ラストの1周。足が重だるく、呼吸も少し苦しい。しかし、目標の5分30秒を切るために何とか頑張らなくてはならない。多くの方々が声援して下さい。ラストの一〇〇m。思うように足は上がらなかつたが、何とかゴールイン。記録は5分33秒で、目標を少しオーバーしたが、選手に選んで頂いてからの記録ではベストのタイムであった。順位はそれほど良くはなかつたが、思う存分走ることができた。

大会を振り返り、開会式及び閉会式、後夜祭には多くの方々から心暖かい歓迎をして下さり、あの感動は一生忘れることのない貴重な思い出になった。スポーツを通して様々な経験と多くの方々とふれあうことが出来、これからの私の人生に大きなプラスとなる大会であった。最後にお世話になりました役員の皆様、仲良くして頂いた選手の皆様、心より感謝申し上げます。



里内選手の力強い砲丸投

「人間の大切な姿」

栗東町 里内 敏明

6月から10月まで、全国大会の選手として強化練習をしてきました。

私の出場種目は、陸上競技の一〇〇m競走と砲丸投です。私は毎日朝5時から7時までトレーニングを行いました。

10月31日、大津の滋賀県公館で結団・壮行式が行なわれ、滋賀県選手団は「ガンバロー」と結団の決意を新たに大阪に出發しました。

新大阪駅では多くの人々に迎えて頂き感激しました。そして、宿舎の三井アーバンホテル入りました。

翌日はフライングプラザ大阪で練習を行ないましたが、スポーツマンを見てみると、人間とは本当にすごいものだと感じました。

そして11月2日、開会式が開始され、会場に炬火リレーが入って来た時、これが平和の炎かと思ひ感激しました。競技が始まり、選手たちはと

てつもないスピードで走ったり、泳いだりします。苦しくても最後まで勝負をあきらめません。競技の後は、皆に友情が芽生え交流が深まり、人間の大切な姿がここにあると思いました。

今大会で、素晴らしい心を持った多くの仲間がいる事を実感できました。そして、この心こそ人間が作り上げてきた「宝物」として守り続けたいと思います。これからは全国の仲間と一緒に、より「ふれ愛」を行なっていきたいと思ひます。

私は競技では入賞出来ませんでした。この心を大切に今後陸上競技に挑戦していきたいと思います。

「第2の人生の励みに」

近江八幡市 岡田 昌平

好天に恵まれた秋空の下、皇太子殿下・同妃殿下をお迎えして、ふれあいピック大阪が開催され、滋賀県代表として出場出来たことは、この上ない喜びでありました。



いつでも笑顔をやさなかつた岡田選手

くぐりの障害を抜ける

八田富美野選手(新旭町)



伊藤美由紀選手(大津市)

花火を合図に入場行進が始まり、大観衆の声援と拍手に送られ、軽やかに行進し、興奮冷めやらぬうちに入場行進と開会式が終わりまりました。

そして、直ちに競技が始まり、各自種目別に出ていく選手にエールをおくり健闘を讃えあつたりしているうちに、自分の出番が来て「練習一回と本番3回」と言われ、緊張が一層増しました。練習が終わるといささか緊張もほぐれたようでしたが、第1回目の投球はファールとなりました。そこで、深呼吸を行なったところ気持ちが落ち着き、第2回目は思い通りに投げる事が出来、自己ベストを大幅に更新する33m56cmの記録で、種目2位の良い結果が出ました。

砲丸投では、1回目、2回目3回目とも上手に投げられました。3回目も最大限の力を振り絞って投げたところ、力が余り足が出てファールとなり、自己ベストが出ず残念な思いをしました。

また、閉会式終了後のアトラクションでは大変心が和み、楽しい「ふれ愛びっく大阪」の思い出となりました。最後にお世話になった皆様、厚く御礼申し上げます。特に最初から最後まで介護をして頂いた方のお蔭で、不慣れな場所での行動や生活に不安を抱く事なく、心強く競技出来た事を改めて御礼申し上げます。

見事バーをクリアする  
伊藤美由紀選手(大津市)  
しかし、全体としては6m68cmの記録で1位を獲得する事が出来ました。  
競技を振り返ってみると、それまでの練習の成果と、日頃の体力作りを根気よくする事が何より大切である事をひしひしと痛感させられました。  
更に、障害者でもやれば出来るという自信が大きく湧いてきました。このメダルは小生の一生の良き思い出になり、第2の人生の再出発の大きな励みになりました。



自己新・金メダルで声援にこたえる中村選手



表彰台上の中村選手

「意義深い思い出」

草津市 岸本 和明

11月2日・3日の二日間、第33回全国身体障害者スポーツ大会が、大阪長居公園陸上競技場で行なわれ、この大会に参加出来て大変嬉しく思いました。

私は砲丸投と100m競走に出場し、強化練習会で学んだ事を思い出し、一生懸命頑張りました。その結果、砲丸投は二位でメダルを獲得できましたが、100m競走ではメダルを獲得

する事が出来ませんでした。この大会はもう二度と出場出来ないとの事でしたので、もう少し良い成績を出したかったのですが、残念に思いました。

しかし、私より障害の重い人達でも良い成績を上げておられる事を知り、それと比べ「もつと頑張らなくてはならない」と考えさせられました。

10月28日には、草津市長様をはじめ多くの方から激励の言葉を頂きました。出発日の10月31日は滋賀県公館での結団式の後、皆様のお世話になりながら大阪へ連れて行って頂いた事、当日の開・閉会式の様子、後夜祭、観劇、交流会、解団式等楽しい一時を過ごさせて頂きました。これは意義深い思い出となり、一生忘れる事はないと思います。結団式から解団式まで色々とお世話になりました。ありがとうございました。

ツ大会は終わりましたが、他の事で出会う事がありましたら、私から声をかけたいと思います。

「明日への大きな自信と希望」

水口町 中村 茂

私は89年に交通事故で足を負傷し、好きな野球等をする事が困難になりました。

5月の県の陸上競技大会において、私は砲丸投(4kg)で8m52cm記録で1位となり、また、6月の選考記録会において、立幅跳で1m86cmの記録を出し、結果、この2種目で全国大会に

でそちらからも、声をかけて頂きますようお願いいたします。

出場する事が決まりました。

10月31日に本県を出発してから帰郷するまでの六日間は素晴らしい天候に恵まれ、日頃の練習の成果を思う存分発揮する事が出来ました。

結果は立幅跳では銅メダル、砲丸投では自己新記録で金メダルを獲得する事ができました。これも監督をはじめ各コーチ、指導員、役員の方々のご指導、激励、応援のお蔭だと深く感謝致しております。

なお、閉会式では式典後の催事として、フィールドを取り巻いた小学生・保育園児の可愛らしい演技や、バックスタンドの宝塚スターの素晴らしい演技の数々に楽しませて頂きました。この大会に出場出来た事は、生涯を通じて貴重な思い出となるだけではなく、明日への大きな自信と希望を得る事が出来たと思います。

本大会に参加させて頂き、ありがとうございました。

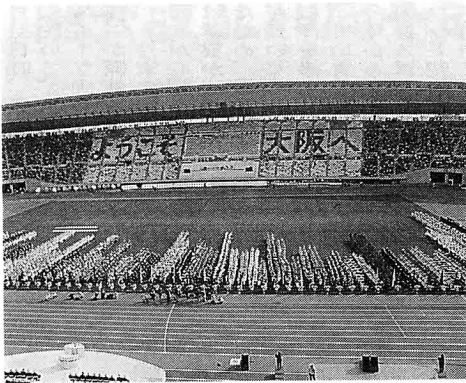


第33回全国身体障害者スポーツ大会滋賀県選手成績表

氏名(障害区分)	種目	記録	順位	氏名(障害区分)	種目	記録	順位
田中光二 (聴覚、平衡、 音声・言語機能障害)	ハンドボール投	31m06	5	村田俊志朗 (視力手動弁 から0.03まで)	2.5m自由形	18秒85	2
	卓球	—	3		2.5m平泳ぎ	22秒92	1
岸本和明 (上肢に不随意運動を伴う 走不能)	砲丸投	3m26	2	松浦儀明 (両下肢不完全)	障害急歩	35秒0	1
	100m競走	27秒55	7		砲丸投	6m69	2
宇野繁博 (視力手動弁 から0.03まで)	1500m競走	5分33秒47	8	森下祐助 (その他の視覚障害)	槍投	6m94	1
	ソフトボール投	54m22	3		ハンドボール投	12m22	4
里内敏明 (手部切断)	100m競走	18秒95	6	吉村宗二 (両下肢完全)	ソフトボール投	11m94	7
	砲丸投	6m95	4		砲丸投	3m56	7
中村茂 (片下肢不完全)	立幅跳	2m05	3	伊藤美由紀 (聴覚、平衡、 音声・言語機能障害)	ハンドボール投	19m32	4
	砲丸投	10m04	1		走高跳	1m05	2
若林重市 (肢体(2)その他)	100m競走	24秒20	2	八田富美野 (補装具なし で走不能)	ソフトボール投	13m00	4
	ソフトボール投	17m16	2		障害急歩	41秒1	4
岡田昌平 (視力0から 光覚弁まで)	ソフトボール投	33m56	2	注) 記録中の太字は自己新記録を表す。 また競技名の上段は11月2日に行なわれた競技、 下段は11月3日に行なわれた競技を表す。			
	砲丸投	6m68	1				

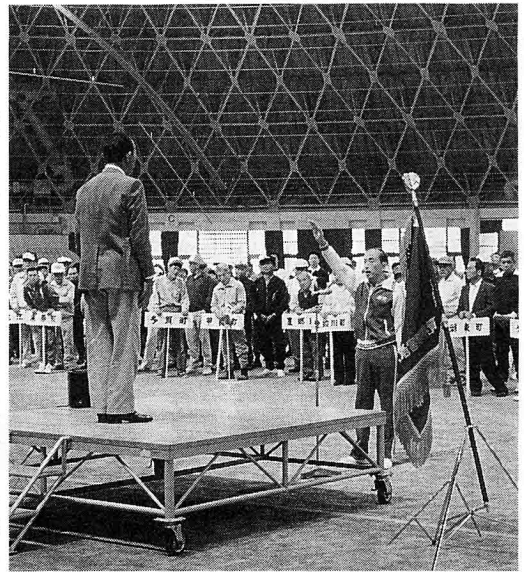


# 思い出を……



# ありがとう……

# 第12回県障害者ゴルフラウンド・ゴルフ大会



選手宣誓をする伊関光男選手(彦根市Eチーム)

10月5日(日)、県立長浜ドームにおいて、第12回滋賀県障害者ゴルフラウンド・ゴルフ大会が開催されました。

今大会は全国障害者ゴルフラウンド・ゴルフびわこ大会の県内出場者の予選を兼ねての開催となった為、参加チームの編成も従来の6人1チームではなく、3人1チームとなり、個人参加についても可能となりました。

また、成績についても従来のチーム順位のみから、今回は全国大会のりハール大会として電算機による処理を導入した事で個人順位についても対象となり、また、チーム内の交替要員については廃止となる等、全てにおいて変更点の多い大会となりました。さらに市町村からの出場枠も変更となった事から、

四一四名の参加申し込みがあり、実際にプレイする人の数としては前回より百人以上の増加となり、例年にもまして賑やかな大会となり、多くのプレイヤーが全国障害者ゴルフラウンド・ゴルフびわこ大会の出場権を目指して熱き戦いを繰り上げました。

一方運営については実験的な事柄も多く、進行がスムーズに行かず大会が終始遅れるというハプニングがありました。全国大会の運営の為の貴重な資料を得ることが出来、学ぶ点の多い大会でもありました。

競技では団体、個人競技ともクラブ等で日常から練習を行なっている地区の健闘が目立ち、結果団体競技においては信楽町身障更生会Aチームが52打のスコアで優勝を飾り、個人競技の

部においては長浜市の山室忠夫さんが12打の素晴らしいスコアで優勝されました。

なお、大会の結果、上位約半数のチームが全国大会に駒を進めることになりました。

第12回滋賀県障害者ゴルフラウンド・ゴルフ大会結果

★団体競技の部  
優勝 信楽町身障更生会  
Aチーム 52打

準優勝 土山町身体障害者更生会Bチーム 53打

第3位 大津市1チーム 56打

★個人競技の部  
優勝 山室忠夫(長浜市) 12打

準優勝 松本とみ(八日市市) 14打

第3位 谷精一(信楽町) 14打

★ホールインワン賞  
大津市 永尾 正 森江 睦  
近江八幡市 中村美代子  
八日市市 中江幸子 田中洋子  
寺田祐一郎

草津市 久保 茂  
栗東町 中村きみ  
土山町 清水さだ 向井盛男  
安土町 井尻兼祐  
日野町 加賀すて

多賀町 辰野八重子  
伊吹町 常喜金一  
浅井町 高山 博  
朽木村 藪内あや子  
高島町 田中昭一郎

新旭町 向井秀雄

去る8月31日(日)、県立アーチエリー場に於いて、第35回滋賀県障害者スポーツ大会(アーチエリー競技)が開催されました。今大会は、8月末の開催となったため、暑さが心配されましたが、当日は薄雲が広がり小雨もパラついたため、温度的にはむしろ具合が良いくらいで、参加者達は額に汗を滲ませながら的に向き合っていました。

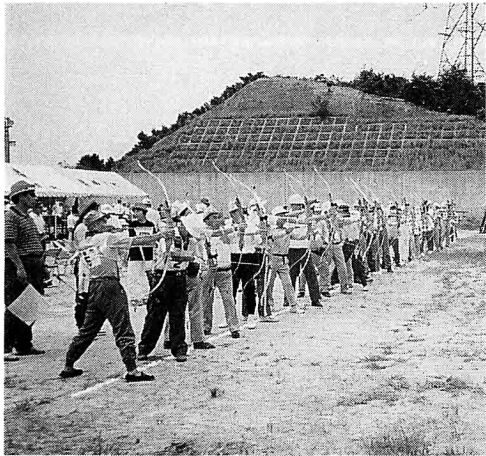
また、今年から30m競技については全国身スポ大会と同様のダブルラウンド72射に改められたため、午前中に競技が終わってしまい物足りないというような事もなく、ハイレベルな競技が終日繰り広げられました。

一方、初心者も目立つ15m競技に於いては、わきあいあいとプレーを楽しむ姿が多く見受けられ、30mとはちがった意味で大会を満喫されていました。しかし、参加者数につきましては、今年も例年並みにとどまり、参加者の固定化を打破する有効な手段が求められます。

射撃・アーチェリー等の「静のスポーツ」は障害者・高齢者にも最適なスポーツと言えます。「スポーツなんてとても……」と考える前に、是非一度体験してみてください。

- 15m・30m最高得点者
- 〈男子1部15m〉
- 川原崎景一(湖東) 二七二点
- 〈男子2部15m〉
- 伊関 光男(彦根) 二七九点
- 〈女子1部15m〉
- 藤谷 美恵(甲賀) 二〇二点

## 県大会(アーチェリー)

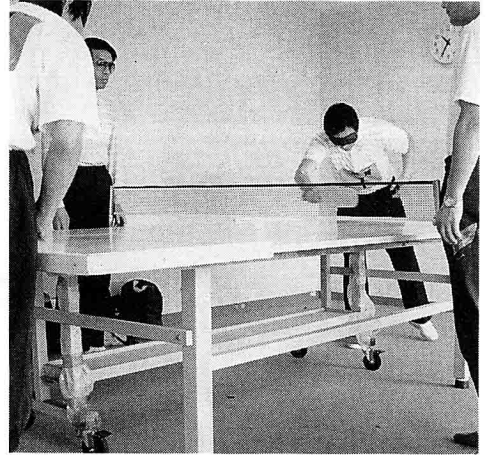


15m競技での一コマ

- 〈女子2部15m〉
- 藤崎恵美子(湖東) 二四三三点
- 〈男子1部30m〉
- 竹本 和夫(湖北) 四五二点
- 〈男子2部30m〉
- 畑 盛(草津) 六三三三点
- 〈女子1部30m〉
- 北川 正子(湖北) 四三二点

9月21日(日)、草津市総合体育館において、第35回県大会(卓球競技)が開催されました。県大会の卓球競技は以前は11月に開催される事が多かったのですが、11月の体育館は結構冷え込む為、ここ何年かは10月の開催となっていました。今年には更に早まり9月の開催となり

## 盲人卓球競技での熱戦!



## 県大会(卓球)

観客・役員等で体をあまり動かさない層には丁度良かったものの、選手からはいささか暑いとの声もあり、時期設定の難しさを感じました。

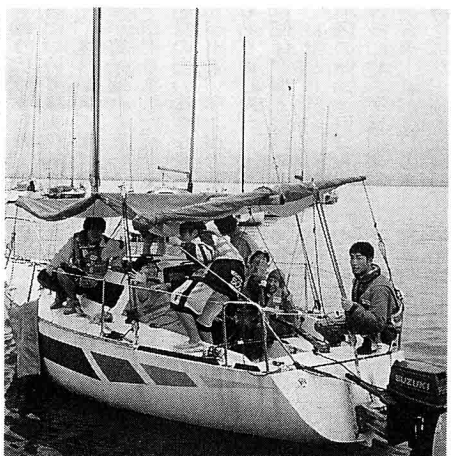
競技は湖西地区を除く12地区で争われましたが、湖西地区の不参加は遂に5大会連続となり久しぶりの13地区揃っての大会を期待していただいただけに非常に残念な結果となりました。

しかし今年も僅かながら棄権率の改善が見られ、また、参加者数も何とか減少ということにはならず済んだ事で、参加者数という点については明るい話題の少ない中で、「湖西地区の参加者の復活さえあれば」という希望を与えてくれました。

競技は療育の部の25人を含む一八〇人の参加者で争われ、一球ごとにサーブ権が入り替わるハードなシーソーゲームあり、はたまた友好ムードの試合ありで、初心者からセミプロ?級の方まで様々なレベルの参加者が各々のレベルに合せて大会を楽しんでおられました。

一方、地区対抗部門においては、今年も甲賀地区が湖南地区を破り5年連続17回目の優勝を果たし、3位の大津地区、4位の草津地区も変化がなかった事から、1位から4位までが3年間同一という結果となった為、上位チームを脅かす伏兵の出現も期待したいところです。

## '97立命チャレンジヨット



ボートピープル?クルーザーを楽しむ参加者

7月13日(日)、滋賀県柳ヶ崎ヨットハーバーにおいて、立命館大学ヨット部からの招待による「97立命チャレンジヨットin琵琶湖」が開催されました。

5回目の招待となる今回は、知的障害者20名を含み、過去最高の43名の参加者と事務局・介護人11人で総勢54人の大所帯となり、大変賑やかな行事となりました。

前回は、絶好のヨット日和となり、初秋の湖上を満喫する事ができたこの行事ですが、今回は前日から警報が出るほどの雨で、ヨットを出すことは難しいとの判断のもと、当初はクルーザーのみの出航となりましたが天候も次第に回復し、多少の雨はのこったものの、後半はヨットでのクルージングを楽しむことが出来ました。

今年には特に知的障害者の参加が目立ち、参加者の平均年齢がぐっと若返り、雨にもかかわらず、ハーバーには元気な声が響き渡りました。

- なお、各地区の成績は次の通りです。
- 優勝 甲賀地区
  - 準優勝 湖南地区
  - 第3位 大津地区
  - 第4位 草津地区
  - 第5位 彦根地区
  - 第6位 長浜地区
  - 第7位 八日市地区
  - 第8位 愛知犬上地区
  - 第9位 守山地区
  - 第10位 近江八幡地区
  - 第11位 湖北地区
  - 第12位 湖東地区

そして上陸後の懇親会では部員の方々と楽しい交流があり今年のチャレンジヨットも、立命館大学ヨット部の皆様のおかげで、大盛況の内に幕を閉じました。

立命館大学ヨット部の皆様、本当にありがとうございました。



# 第16回ス・シヤルス・ポーツカーニバル



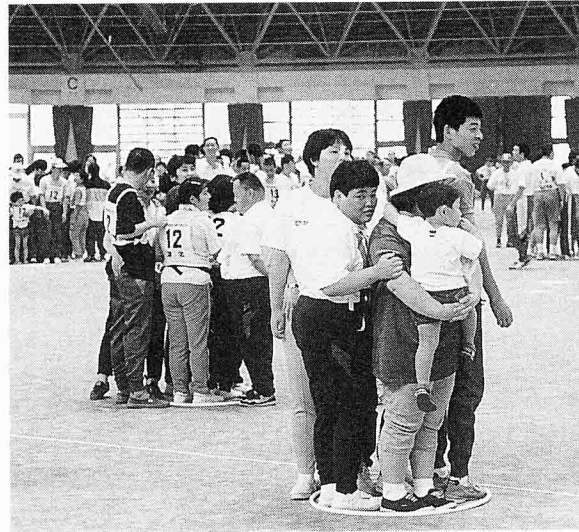
「たくはいびん」も盛り上がりました!

7月20日(日)、県立長浜ドームにおいて、第16回滋賀県ス・シヤルス・ポーツカーニバルが開催されました。  
県内の知的障害者スポーツのイベントとしては最大の祭典であるこの大会ですが、ドームでの開催も5回目となり、夏の長浜の行事?としてすっかり定着した感があり、今回も中主町を除く全市町村から多数の参加者があり、賑やかな大会となりました。

また、競技役員についても、回を重ねる毎に手際がよくなり、夏の暑さの中にもかかわらず、熱心に大会運営をこなしておられました。

組合消防音楽隊の皆さんの素晴らしい演奏があり、カーニバルの開幕を一層盛り上げて下さいました。また、参加記念メダル授与では、今年も月光仮面が登場し、悪者の忍者からメダルを取り戻すという内容の劇仕立のセレモニーがありました。

## 新種目(入れ入れ輪の中へ)での一コマ



- ▼一五〇〇m競走(男子)
- 1位 辻 正規(甲賀) 4分56秒4
- 2位 若井章吾(湖南) 5分08秒3
- 3位 浦谷幸好(近江八幡) 5分55秒6
- ▼一五〇〇m競走(女子)
- 1位 久米田藤子(甲賀) 7分45秒9
- 2位 笠井洋子(八日市) 7分54秒8
- 3位 松宮ひとみ(八日市) 8分30秒5
- ▼支部対抗リレー
- 1位 湖南地区 1分14秒7
- 2位 長浜地区 1分19秒3
- 3位 守山地区 1分19秒7
- ▼たくはいびん
- 優勝 湖西地区
- 準優勝 愛犬地区
- 3位 草津地区

## 第2回ビームライフル教室



熱心に的を射る参加者たち

8月3日(日)、県立障害者福祉センターにおいて、第2回ビームライフル教室が開催されました。  
当協会では県ライフル射撃協会の全面的な協力により、この競技の普及に取り組んでおり、昨年に引き続き正式な教室として開催する事となりました。  
過去、当協会では様々な新スポーツに取り組んでまいりましたが、あまり広がりを見ないまま下火になる種目もある中で、ビームライフルは人気上昇中で、今回の教室には前回の参加者39名を大きく上回る63名の参加者がありました。

教室ではまず、銃の取り扱い等の基本的な説明があった後、後半は競技会形式で行なわれ、参加者たちは真剣な表情で射撃に取り組んでいました。  
参加者の中には10点満点を連発するものもあり、ライフル射撃の全面的な協力により、この競技の普及に取り組んでおり、昨年に引き続き正式な教室として開催する事となりました。  
過去、当協会では様々な新スポーツに取り組んでまいりましたが、あまり広がりを見ないまま下火になる種目もある中で、ビームライフルは人気上昇中で、今回の教室には前回の参加者39名を大きく上回る63名の参加者がありました。  
教室ではまず、銃の取り扱い等の基本的な説明があった後、後半は競技会形式で行なわれ、参加者たちは真剣な表情で射撃に取り組んでいました。  
参加者の中には10点満点を連発するものもあり、ライフル射撃の全面的な協力により、この競技の普及に取り組んでおり、昨年に引き続き正式な教室として開催する事となりました。  
過去、当協会では様々な新スポーツに取り組んでまいりましたが、あまり広がりを見ないまま下火になる種目もある中で、ビームライフルは人気上昇中で、今回の教室には前回の参加者39名を大きく上回る63名の参加者がありました。



### 新規賛助会員について

本協会活動にご理解を賜り、新しく賛助会員にご登録を頂いた会員(法人・個人)は次の通りです。(平成9年8月〜平成10年1月)

- 賛助会員(法人)
  - 株式会社 渡邊運動具店
  - 大津市長等2丁目2-22

- 賛助会員(個人)
  - 勝部 憲一
  - 守山市梅田町6-38

### 福家 俊明

大津市園城寺町2-46 (敬称略)

### 平成9年度

#### 県・協会表彰者

11月22日、協会設立20周年記念事業「障害者スポーツフェスティバルin滋賀」において、平成9年度スポーツ協会表彰者の表彰が行なわれました。今回の表彰では協会設立20周年にあたり、例年の障害者スポーツ功労賞、優秀選手賞に加え、県大会運営協力団体に対する感謝状の贈呈がありました。また、これらの協会会長表彰に先立ち、特別に障害者スポーツ協会設立20周年記念の知事表彰が併せて行なわれ稲葉知事から当協会の八田智洋副会長に表彰状が授与されました。なお、今回の受賞者等は次の通りです。

### 事務局だより

#### ◎古切手等回収協力者

- |       |       |
|-------|-------|
| 大津市   | 八田 智洋 |
| 〃     | 大石 康雄 |
| 〃     | 山田 恵三 |
| 〃     | 板倉 郁子 |
| 〃     | 沢 やす子 |
| 〃     | 橋本 末一 |
| 〃     | 浅井 初美 |
| 〃     | 竹田 敏彦 |
| 〃     | 川口 實  |
| 〃     | 野瀬 高明 |
| 〃     | 北村さよ子 |
| 近江八幡市 | 奥井 康仁 |
| 八日市市  | 内堀 光昭 |
| 〃     | 武村美代子 |
| 守山市   | 山川 昭市 |
| 〃     | 津田 貞子 |

#### ・県障害者スポーツ協会設立20周年記念 知事表彰

八田 智洋 (大津市)

#### ・県障害者スポーツ協会会長表彰

- ▼障害者スポーツ功労賞
  - 四塚 康則 (長浜市)
  - 平尾 忠允 (信楽町)
  - 吉田 益夫 (彦根市)
- ▼障害者スポーツ優秀選手賞
  - 中村 節子 (八日市市)
  - 西村 陽子 (今津町)

- ・県障害者スポーツ大会運営協力団体に対する感謝状の贈呈
  - 滋賀陸上競技協会
  - 滋賀県水泳連盟
  - 滋賀県卓球協会
  - 滋賀県アーチェリー協会

- 栗東町 青木 和彦
- 〃 三浦 ハナ
- 水口町 菊池 滋美
- 〃 林 保次
- 甲南町 藤井 護
- 多賀町 山田 次子
- 豊郷町 久保川一夫
- 高月町 東野 秀和
- 今津町 山下 巧
- 豊郷町役場
- 水口県事務所総務課
- 八日市土木事務所
- 八日市県事務所税務課
- 湖東福祉事務所
- 県障害福祉課

※以上集まった古切手等は県のボランティアセンターに送らせて頂きました。ご協力ありがとうございました。

### ☆各種大会結果☆

#### ▼第8回近畿身体障害者水泳選手権大会

- 平成9年7月6日(日) 於 京都市障害者SC
- 〈男子25m自由形〉
    - 1位 八戸 悟 16秒37
    - 2位 赤井弘和 22秒09
    - 2位 二木清文 16秒33
    - 〈女子25m自由形〉
      - 6位 中江幸子 30秒60
      - 〈男子25m平泳ぎ〉
        - 1位 神園郁哉 36秒20
        - 2位 谷口 稔 30秒13
        - 3位 小林久志 24秒78
        - 〈女子25m平泳ぎ〉
          - 2位 中村節子 29秒83
          - 1位 中川重男 46秒72

- 3位 田中光則 23秒58
- 〈女子25m背泳ぎ〉
  - 5位 中江幸子 37秒37
  - 〈男子25mバタフライ〉
    - 1位 八戸 悟 20秒27
    - 2位 青木和彦 19秒33
    - 〈男子50m自由形〉
      - 1位 青木和彦 40秒65
      - 1位 駒井裕康 34秒74
      - 2位 神園郁哉 52秒27
      - 2位 田邊 智 40秒14
      - 2位 赤井弘和 49秒38
      - 3位 中村金蔵 52秒20
      - 〈男子50m平泳ぎ〉
        - 1位 駒井裕康 50秒52
        - 1位 谷口 稔 1分05秒37
        - 2位 田邊 智 56秒22
        - 〈男子50m背泳ぎ〉
          - 1位 知念悟志 58秒29
          - 1位 田中光則 56秒49
          - 〈男子50mバタフライ〉
            - 1位 小林久志 53秒87
            - 〈男子75m個人メドレー〉
              - 1位 知念悟志 1分33秒48
              - 〈男子 m自由形〉
                - 1位 中村金蔵 1分58秒37
                - 〈男子 m背泳ぎ〉
                  - 1位 二木清文 1分40秒69

- ▼第7回近畿車椅子ツインバスケットボールびわこ大会
  - 平成9年8月31日(日) 於 県立障害者福祉センター大阪グッパーズ対INFINI 53対12 (一回戦負け)
  - ▼第14回日本身体障害者水泳選手権大会
    - 平成9年9月13日(土)・14(日) 於 群馬県立ふれあいスポーツプラザ

- 〈男子25m自由形〉
  - 1位 八戸 悟 17秒61
  - 〈男子25m背泳ぎ〉
    - 1位 八戸 悟 22秒26
    - 〈男子50m自由形〉
      - 9位 田邊 智 38秒91
      - 〈男子50m平泳ぎ〉
        - 3位 田邊 智 55秒45

- ▼第7回日本身体障害者バドミントン選手権大会in仙台北
  - 平成9年9月27日(土)・28日(日) 於 宮城県スポーツセンター
  - 〈男子ダブルスCブロック〉
    - 2回戦敗退
  - 2回戦敗退
    - 山田恵三・他府県選手組
    - 〈男子シングルスCブロック〉
      - 2回戦敗退 山田恵三
      - 〈女子ダブルスDブロック〉
        - 優勝 中村節子・他府県選手組
        - 〈女子シングルスDブロック〉
          - 2位 中村節子

### 墓銘碑

当協会の協力員として、当協会の行事にご尽力頂いてきた、畑盛(はたまもる)さんが、脳梗塞のため昨年12月11日にお亡くなりになりました。畑さんは県身障者アーチェリークラブの代表者として、アーチェリー競技の指導・普及等に力を注がれるとともに、スラローム等の車イス競技の専門家としても知られ、大会運営等において大きく貢献されてきました。畑さん急死は、当協会にとつて大きな損失であり、今更ながらその存在の大きさを感じます。ただ、ご冥福をお祈りいたします。

### 【曼陀羅図】頒布のお知らせ

本協会の賛助会員である日本アイ・ビー・エム(株)野洲事業所から社会貢献活動の一環として、平成六年に寄贈を受けた掛け軸「近江の仏と女人曼陀羅図」(原画 日本画家鈴木靖将氏制作)は大変好評のうちに広く頒布でき、その販売収益は同社のご趣旨に沿って協会事業資金として有益に活用させていただきます。

掛け軸は、現在のところ大分販売済ですが、まだ残余がありますのでご希望の方に順次お届けします。頒価は、一部千円郵送の場合、千六百円で、協会事務局までお早めにお申し込みください。

### 【編集後記】

〇さて、今世紀もあと三年、そして「真年」。十二支にいう「真」は、「生まれ出る」、「動き始める」の意とも言われます。謳われて久しい国際障害者年のテーマ「完全参加と平等」の一日でも早い達成のために障害者スポーツを、もつともっと盛んに、そして力強くしていく必要があります。障害者の一人ひとりが、新しい目標を掲げて挑戦し、そしてお互いに高めあっていく「行動する今年」でありたいと念じます。〇この会報51号の発刊が、二十周年記念事業等の関係から遅くなったことをお詫び申します。(事務局長)